



椎の木

令和6年6月1日発行 6月号

朝霞市立朝霞第八小学校
〒351-0012 朝霞市栄町5-1-41
TEL:048-465-8381 FAX:048-467-4739
文責：校長 田中 誠

【目指す学校像】教育は子供の未来づくり ～児童に未来を生き抜く力の基礎を育てる学校～

早いもので、1学期の折り返し点を過ぎました。

先日、今年度初めての避難訓練を実施しました。地震が起こり、その後給食調理室から出火したことを想定しての訓練です。緊急地震速報が流れた際の行動のとり方、避難経路、避難時の注意等の確認をしました。今回の訓練で感心したことは、避難場所である校庭に集まった時の子どもたちの様子です。千名を超える大人数なのに、その後のまとめの会でも本当に静かに話を聞いていました。災害時は「自分の身を自分で守ること」が最も大切で、それができるためには指示や情報をしっかり聞くことが大前提となります。こうした姿勢を続けていけるよう指導していきたいと思えます。



「可愛くば五つ教えて三つ褒め二つ叱って良き人となせ」

これは二宮尊徳（金次郎）の言葉です。二宮尊徳というと、薪を背負いながら本を読んでいる像が思い浮かぶでしょうか。尊徳は、「褒めるだけではダメになるし、叱るだけでも相手がダメになる。叱るよりも褒める方を多くすることがよい人材を育てる」と語っているのだと考えられます。

「褒める」という言葉で調べていると、『褒めることの効用から「褒めて認めて、子どもを伸ばそう」という論調があり、「叱る」という行為自体がよくない』という内容の記事がありました。理想的にはわかりますが、叱ることをなくすのは難しいですね。大勢が集団生活を送る学校ではトラブルも発生します。その解決の際には「ダメなものはダメ」と叱る（諭す）ことが必要になることもしばしば。また、子どもたち相互の安全・安心を脅かすような行為があれば、必ず指導しなければなりません。私は教員になった頃、先輩教師から「9褒めて1叱れ」と教わりましたが、叱る（指導する）ことの方がどうしても多くなってしまっていました。

また、褒めようと思っただけでもうまく見つけられなかったという覚えがあります。そうしたことについて、別の記事には、『褒めようとしてもなかなかそうしたシーンに出会わなかったり、無理に褒めようとするとなぎとらしくなってしまうことがあります。そうしたことを考えると、褒めるより「認める」という方がやりやすいところになるのではないのでしょうか。「いいね!」「すごいね!」「さすがだね!」といった言葉で子どもの言動等を承認します。大げさにならず、あくまでも軽い調子で言うことがコツです。そうした承認言葉は、子どもの自己肯定感を高めることにつながるため、うまくいくと子どもの自己実現への欲求を育てることにもつながります。』とありました。若い頃に知っていれば、私もまた違う言葉かけができていたかもしれません。

褒め、認めるのも叱るのも、どちらも子供たちの健やかな成長を願って行うこと。（尊徳の言葉では「よい人にする」）バランスよくしていきたいものです。



5月8日(水)
給食のピースご飯の準備。1年生とわかば学級の子供たちがさやむきをしてくれました。